留学報告書
～大学生活で一番の思い出～

ペンシルバニア・インディアナ大学
外国語学部生（中期）

私は2019 年8月19日から4か月間、アメリカのペンシルバニア・インディアナ大学(IUP)に留学をした。NGUからこの大学に留学するのは私一人だったため、一人でやっていけるか、本当に不安で仕方なかった。大学に着くとIUPのRAの学生が、私がこれから住むことになる寮の部屋に案内してくれた。部屋に着くと、そこには韓国人の学生がいた。彼女は私と同い年で、日本が好きということから、すぐに打ち解けられた。それから2日後、IUPについてのオリエンテーションや歓迎パーティーが行われた。歓迎パーティーでは、様々なゲームが用意されていたり、みんなでダンスをする機会があった。また、そこで初めて他の日本人学生を見つけ、それからはよく遊ぶようになった。オリエンテーションの後は、IUPのアメリカ人の友達と再会をした。彼は、私が留学する前の春学期にNGUに留学しており、私は当時RAを担当していたので、彼とは以前から親睦を深めていた。だから、再会を果たせてとても嬉しかった。後に、彼の友達とも親交を深め、家に遊びに行ったり、休日にはよく一緒に出かけた。彼らはとても親切で、IUPの施設や授業の情報を教えてくれたり、買い物に行くための車を何回か出してくれた。そのため、私の留学生活に対する不安は少し軽減され、楽しみに思うことが増えた。そんな彼らのおかげで、私は早い段階から彼らとたくさんの思い出を作ることができた。私たち留学生の誕生日には留学生寮に駆けつけて友達の誕生日を祝い、私も11月に誕生日があったため、彼らに祝ってもらい、とても嬉しかった。

オリエンテーションが終わり、いよいよ授業が始まった。私はESLを受講する予定だったが、手違いで現地のアメリカ人と共に一般授業を受ける学部コースに登録していたため、ドイツ語、化学、演劇、栄養学の授業を選択した。これらを選択した理由は、日本では受けられない授業を受けてみたいと思ったからである。もちろん、最初は英語を選択しようとしたが、留学担当者から、英語とドイツ語を両方受けることを反対されたのと、英語は日常生活で身に着けようと考え、渡米する前から好きだったドイツ語を選択した。授業は、ついていけるか不安だったが、ちゃんと集中して講義を聞いていれば、内容も理解でき、テストでも高得点を取ることができた。だから毎日、授業の復習を欠かさず行った。授業で特に印象に残っているのはドイツ語だ。私はもともとNGUで第二言語としてドイツ語を受講していたが、IUPのドイツ語の授業は、授業日数、宿題、授業で扱う単語がとても多く、毎日こなしていくのが少し大変だった。だが、英語で新たな言語で学ぶことはとても刺激的で、私にとってとても大きな経験になった。先生はいつも私を気にかけてくれ、私を励ましてくれた。そのため、私はとても楽しくドイツ語の授業を受けることができた。最後に私は先生に感謝の手紙を書き、お互いの母国に行き、再会することを約束した。その日がとても楽しみだ。

授業以外では、クラブ活動、IUPの学生が行っているチューター、現地のアメリカ人の家族と交流ができる企画などに積極的に参加し、アメリカ人と話す機会をできる限り増やした。私は、フィリピン人の学生とパートナーになり、大学の近くのレストランや、学内のバスケットボールの試合などに連れていってもらった。アメリカ人のファミリーとは、ファミリーが経営しているカフェで何回か会うほか、お宅に訪問して、ピザをご馳走になった。また、IUPには様々なクラブ活動があり、私は日本語クラブに参加した。クラブに所属しているアメリカ人は日本に興味のある学生ばかりだったため、とても親切に接してくれた。クラブでは、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティーを開催したり、アジアフードの専門店や、野外のハロウィンのお化け屋敷にも行く機会があった。ハロウィンパーティーでは、日本人学生と共に仮装をした。私はこれまで、仮装をした経験がなかったため、少し恥ずかしかったが、派手なメイクをした。また、パーティー内で仮装コンテストがあり、友人たちの激しい勧めにより、私も参加することになった。驚くべきことに、そこで私は一位を受賞し、とても楽しい時間を過ごすことができた。

アジアフードの専門店では味噌汁、うどん、ラーメン、お米、などの日本でよく見る食材があった。日本から日本食は何も持ってきていない上に、アメリカに来て初めて日本の食材を見た私にはとても新鮮に感じた。特に感動したものが、納豆や鰯の缶詰めだった。また、学校にも日本食を販売しているお店があり、日本食の代表の一つであるお寿司も売られていた。試しに買ってみると、日本のものと変わらないくらい美味しかったのでとても感動した。また、大学の近くにはWalmartという大きなスーパーマーケットがあったため、そこでも食料品を購入した。Walmartに行って驚いたことは、何と言っても商品の棚が高く、種類が多いことである。特に、ポテトチップスやシリアルは数が多かった。

旅行は、IUP の留学生センター主催のピッツバーグ、ニューヨーク、ナイアガラの滝へ、サンクスギビングの一週間を使って、ロサンゼルス、グランドキャニオン、アンテロープキャニオン、ラスベガスへ、そして、学期の終わりにはシカゴへ行った。ニューヨークは夜景が綺麗な上に、ずっと行きたかったタイムズスクエアや、自由の女神に行けてとても嬉しかった。

ロサンゼルスでは、グリフィス天文台、サンタモニカ、ディズニーのカリフォルニア・アドベンチャーパーク、ユニバーサルスタジオに行った。サンタモニカは、気温も秋とは思えないほど暖かかったため、半袖やノースリーブを着ている人を多く見かけた。昼間の海も十分綺麗だったが、特に、夕方の日の入りは格別だった。そして、近くのロブスター専門のレストランに行き、ロブスターを食べた。殻がとても固く、食べにくかったが、その大きさや美味しさに感動した。ディズニーのアドベンチャーパークやユニバーサルスタジオは、日本とかなり違ってとても興味深いものだった。人が全然いなかったため、アトラクションを楽しむ時間や、お土産を購入する時間もたくさんあった。ラスベガスは、街並みがきれいで、綺麗なモールがたくさんあったが、どこへ行っても、カジノだらけで治安も悪く、少し怖かった。グランドキャニオン、アンテロープキャニオンは、ラスベガスからバスで行き、私が想像していたよりもはるかに広大で、芸術的だった。一人で一週間旅行したが、無事に旅をすることができて良かった。シカゴでは有名なシカゴピザを食べた。とても分厚くて、普通のピザを５枚ほど重ねたような高さだった。また、夜景を一望できるスカイデッキ、ミレニアムパークに行った。シカゴの街並みはとてもお洒落で、また旅行で訪れたいと思った。

サンクスギビングが過ぎると、私の留学生活も終わりに近づいていた。チューターをしてくれた IUP の学生や、友達に別れを告げて、手紙を書いたり、プレゼントを渡した。たくさんの思い出に溢れた留学生活。大学生活の中で間違いなく、一番大きく、二度とないかけがえのない時間。４か月という短い時間でも、留学できたことを誇りに思う。